

令和 4 年 6 月 13 日現在

機関番号：34428

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19K04781

研究課題名(和文) 初期近代スペイン都市計画における多様性創出・機能分散・都市拡張の視点

研究課題名(英文) Perspectives on Diversity Creation, Functional Dispersion, and Urban Expansion in Early Modern Spanish Town Planning

研究代表者

加嶋 章博 (Kashima, Akihiro)

摂南大学・理工学部・教授

研究者番号：80390144

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：スペインは近世以降、数々の植民都市の建設を通して、都市の計画技術を蓄積してきた。本研究では、「都市計画」という概念が未だ成立していないスペイン植民都市計画の分析を通して、初期近代の「都市計画」概念や都市計画技術の特徴を明らかにし、とくに「多様性創出」「機能分散」「都市の拡張性」という視点を抽出した。また、それらの近代都市計画の理念との比較や現代的役割を考察した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近世ヨーロッパにおいて、スペイン王室が示した植民都市の計画手法には、共通した都市空間構造、いわば都市計画の標準形を示そうとする視点が読み取れる。一方、道路や広場の計画においてカテゴリーを設けることで、都市空間に多様な役割や機能を付与するはたらきがあったことが法規範や実践事例から見えてきた。また広場については分散的に配置することで、結果として機能や役割の異なる拠点を都市内に点在させる効果が都市計画規範や都市建設の事例から窺える。さらに、城壁の建設を前提とせず、都市の成長を見越した計画の視点があることも窺え、近代都市計画以前の都市計画の視点として、より具体的で新しい知見が得られた。

研究成果の概要(英文)：Spain has accumulated urban planning techniques through the construction of numerous colonial cities since the early modern period. Through an analysis of Spanish colonial town planning, in which the concept of "town planning" had not yet been established, this study clarified the characteristics of the early modern concept of "town planning" and town planning techniques, and extracted the perspectives of "diversity creation," "functional dispersion," and "urban expandability" in particular. In addition, these concepts were compared with modern urban planning principles and were discussed as their contemporary roles.

研究分野：都市計画史

キーワード：スペイン 植民都市計画 都市計画技術 多様性の創出 機能分散 都市の拡張性 インディアス総合文書館

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

16世紀以降のヨーロッパ近代においては、「都市計画」という概念が未だ確立していない時代であるなか、様々な計画都市が出現した。顕著な例が、植民統治期に900を超えると言われる都市を建設したスペインによる植民都市計画である。そこで示された都市の計画に関わる法規範や勅令、実際の都市建設の事例から、当時の都市の計画技術を読み取ることができる。スペイン植民都市には広場を中心とした碁盤目状の都市計画という、いわば都市計画の標準形の存在があげられる。一方、これまでの計画事例の分析から見えてきた多様性創出・機能分散・都市拡張という都市を計画するうえでの視点を、近代都市計画が確立する以前の事例を通して考察することで、近代都市計画以前の都市計画技術の理解や、「都市計画」の起源についての理解が深まるものと考えられる。

2. 研究の目的

本研究の目的は、初期近代スペインの、特に植民都市計画に、「都市計画」の様々な技術があったことを検証するとともに、これまで指摘されてこなかった計画思想を明らかにすることである。

申請者はこれまで主要広場 Plaza Mayor をとりまく都市核の整備、道路配置、街区配置等をコントロールする計画技術の存在に着目してきたが、本研究では、分析事例を増強し、道路・広場のカテゴリー化、小広場など都市施設の分散配置による「多様性創出」や「機能分散」、成長を見越した「都市の拡張性」という新たな視点を導入する。分析はイメージ史料(都市図等の視覚表現資料)やテキスト史料(法制度等の文書資料)など一次史料をもとに行い、ヨーロッパ・ルネサンス期の都市計画理論とも比較しながら、初期近代における都市計画技術の特性を明らかにすることが本研究の目的である。

あわせてスペインにおいてはヨーロッパ近代都市計画における初期近代と近代の連続性という視点を裏付けるエビデンスを整えることが大きな狙いである。

3. 研究の方法

主にスペイン国立インディアス総合文書館が所蔵する植民統治期の記録文書から、都市の位置や空間構成に関する情報を含む地図や都市図(イメージ史料)を対象に、都市レイアウト、都市施設の配置計画、立地要件などの具体的な計画意図の抽出とその特性について考察し、プランニングの姿勢を検討した。また、勅令や訓令などの法規範(テキスト史料)から読み取れる都市のプランニングに対する特徴を考察した。これら一次史料から抽出した情報をカルテ化し、スペイン初期近代以降の都市計画技術全般に関して蓄積してきたデータベースの充実化を図った。次に「多様性創出」「機能分散」「都市の拡張性」という視点を具体的に検証した。そして、スペイン初期近代における「都市計画」の概念を整理し、都市計画技術の特性を考察した。

インディアス総合文書館では、メキシコ、ブエノス・アイレス、サント・ドミンゴ、パナマ、ペルー、チリ、グアテマラ、ベネズエラ、フィリピン、フロリダ・ルイジアナのセクションの旧植民地セクション別に、7000以上の都市図のほか、膨大な植民地経営に係る行政文書や指示書を保存している。申請者はこれまでメキシコ、ブエノス・アイレス、グアテマラ、サントドミンゴ・セクションの資料調査と分析を行っているが、本研究では収集資料が十分ではないパナマ、ペルー、チリ、ベネズエラのセクションの都市計画関連資料を増強し、都市計画技術の抽出という観点から計画事例別にカルテ化・分析・整理の各作業を進めた。

以上により、初期近代における「都市計画」の概念とその特徴を整理し、近代都市計画に接続する都市計画の視点を考察した。

4. 研究成果

スペイン植民地時代の都市建設に関する史料分析から、「都市計画技術」を同定する作業を行った。史料には、広場や道路や行政施設など様々な都市施設の配置計画や、小広場の分散配置の考え方が窺えるものがあった。さらに、都市の境界線が城壁等の建設により設定されているか、計画されずに曖昧にされているかなども観察できる史料が見られた。これらの観察から、道路・広場のカテゴリー化、小広場など都市施設の分散配置による「多様性創出」や「機能分散」、成長を見越した「都市の拡張性」という視点から、どのような計画性がそこに見いだせるかを考察した。何らかの計画性と判断されるものを抽出し、ヨーロッパ・ルネサンス期の都市計画理論とも比較しながら、初期近代スペインにおける都市計画技術の特性を導き出した。

都市図の描き方からは、都市の計画性や計画技術を掴み取るのに重要な多くのヒントが窺え、都市図カルテにそうした情報を含めた。さらに、都市計画図を描いた作者や技師が判明する場合は、彼らの他の活躍や学歴を追うことで、都市計画技術をどのように修得したのか、という点が

らも考察を行った。

本研究では、スペイン植民地の都市計画規範から見てきた広場のカテゴリー化という視点から、主要広場に加えて、都市における小広場の役割にも着目した。結果、近世以降のスペイン都市空間において形成されていった小広場の役割について、現代的視点からも考察が必要であるという認識を得た。この点については、今日の観光公害対策にも関連する、都市空間資源の分散利用という点からアプローチし、まず下記の文献 で考察した。

また本研究では、こうしたスペイン植民地の都市計画規範がどのような専門的知見から整備されたのかについても考察を行った。その中で、スペイン国内では、近世以降、建築教育や軍事技術教育などを担ったアカデミーにおいて、都市計画技術の教育を行ったことが把握出来た。例えば、王立バルセロナ軍事数学アカデミー-Real Academia Militar de Matemáticas en Barcelona (1700~1803年)は、軍事技師や建築家の教育機関であったが、アカデミー出身者は、城塞建設や植民都市計画などの国家的プロジェクトに数多く携わっている。そこで必要とされた知見は、軍事教育や数学的知見から、合理的にプランニングを行う技術でもあったことが見えてきた。軍事数学アカデミーと都市計画の知見との関連については、文献 で考察し報告した。アカデミーの実態については継続して調査を進めている。

道路・広場のカテゴリー化、小広場など都市施設の分散配置による「多様性創出」や「機能分散」、成長を見越した「都市の拡張性」という都市計画上の視点の一般性に関しては、テキスト史料から読み取れる法規規範などが示す都市の理想像が、イメージ史料に描かれたプランニングに完全に一致することはないが、テキスト史料から読み取れる都市計画における多様性の創出、機能分散、都市拡張を前提とした計画性を、都市図等のイメージ史料において検証できる事例があることは把握できた。しかし、今後、初期近代以降に見られる都市の整備事業等、部分的な都市計画に関するケーススタディを増やし検証していくことが課題である。

本研究のもう一つの目標として、研究成果の公開方法について作業を進めた。まず、分析の対象とした一次史料のデータベースをホームページ上で閲覧できるよう整えた。HP構築システムにより地域別や年代別に都市図を抽出することが可能になるなど、イメージ史料を様々な視点から比較できるような編集とした。その結果、イメージ史料とイメージ史料、イメージ史料とテキスト史料の比較に見て取れる共通性や差異が把握し易くなったと考えられる。

さらに、研究方法の妥当性の検証に関して試論をまとめた。本研究の手法として、テキスト情報の抽出、イメージ情報の抽出、それらの比較考察といった過程がある。イメージとテキストが指し示す内容を相互に関係づける作業は恣意的な判断を含む点にも注意が必要である。この点について、プランニングという行為から導かれる形(イメージ)と言葉(テキスト)による解説の符合について、テキストからイメージを導出する場合と、イメージからテキストを導出する場合の違いや、両者のそれぞれから導かれる帰結が符合する度合について、歴史的視点ではなく、演習モデルを作成し、その評価を考察した(文献)。

また、本研究で着目される、広場の配置によってもたらされる都市の多様性創出や機能分散という観点からみれば、都市形成過程で自然発生的に広場化が進んだ事例においても同じように、都市空間資源の創出に繋がる可能性が考えられる。こうした広場化による都市の多様性創出という帰結について、都市計画の歴史的背景が大きく異なる日本の歴史的な都市形成過程にもあてはめることができるという観点から、文献 で事例考察を行った。

〔著書・論文等〕

野村佳子・加嶋章博、「オーバーツーリズムの影響と対策 スペイン ジローナ市の事例から」『第34回日本観光研究学会全国大会 学術論文集』、2019年、pp.17-20.

加嶋章博、「18世紀バルセロナ・アカデミーにおける建築技師教育と都市計画の知見」、『日本建築学会大会学術講演梗概集』、2020年9月、pp.363-364.

加嶋章博、「テキストとイメージの往復思考」、『日本工学教育協会2021年度工学教育研究講演会講演論文集』、2021年、pp.134-135.

加嶋章博「淀川の風景遺産とは何だろうか 地域資源としての淀川水景の記憶」、後藤和子・鳥谷部壤編『SDGsで読み解く淀川流域』昭和堂、2021年、pp.107-118

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 加嶋章博	4. 巻 -
2. 論文標題 18世紀バルセロナ・アカデミーにおける建築技師教育と都市計画の知見	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 2020年度 日本建築学会大会学術講演梗概集	6. 最初と最後の頁 363-364
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 加嶋章博	4. 巻 -
2. 論文標題 18世紀王立バルセロナ軍事数学アカデミーを通してみたスペインの都市計画教育	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 藤田治彦編『デザイン教育史の国際的比較研究：ディセーニョからメディアテクノロジーの現在まで』 神戸芸術工科大学	6. 最初と最後の頁 60-77
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 野村佳子・加嶋章博	4. 巻 -
2. 論文標題 オーバーツーリズムの影響と対策 スペイン・ジローナ市の事例から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 第34回 日本観光研究学会全国大会 学術論文集	6. 最初と最後の頁 17-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 加嶋章博	4. 巻 -
2. 論文標題 テキストとイメージの往復思考	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本工学教育協会2021年度工学教育研究講演会講演論文集	6. 最初と最後の頁 pp.134-135
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 野村佳子・加嶋章博（共同発表）
2. 発表標題 オーバーツーリズムの影響と対策 スペイン・ジローナ市の事例から
3. 学会等名 第34回 日本観光研究学会全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 加嶋章博
2. 発表標題 テキストとイメージの往復思考
3. 学会等名 日本工学教育協会2021年度工学教育研究講演会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 布野修司、加嶋章博他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 1056
3. 書名 世界都市史事典	

1. 著者名 後藤和子・鳥谷部穰・加嶋章博他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 212
3. 書名 SDGsで読み解く淀川流域	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	サインス・ゲラ ホセ・ルイス (Sainz Guerra J.L.)	バジャドリッド大学	
研究協力者	グアルディア マヌエル (Guardia Manuel)	カタルーニャ工科大学	
研究協力者	サインス ビクトリアーノ (Sainz Victoriano)	セビリア大学	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関